

日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型 (新興国通貨戦略コース)

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第97期(決算日2018年11月19日) 第98期(決算日2018年12月17日) 第99期(決算日2019年1月17日)
第100期(決算日2019年2月18日) 第101期(決算日2019年3月18日) 第102期(決算日2019年4月17日)

作成対象期間(2018年10月18日～2019年4月17日)

第102期末(2019年4月17日)	
基準価額	1,946円
純資産総額	3,282百万円
第97期～第102期	
騰落率	8.4%
分配金(税込み)合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス⇒ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示⇒運用報告書タブを選択⇒該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興ハイブリッド3分法ファンド毎月分配型(新興国通貨戦略コース)」は、2019年4月17日に第102期の決算を行ないました。

当ファンドは、世界の様々な資産を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

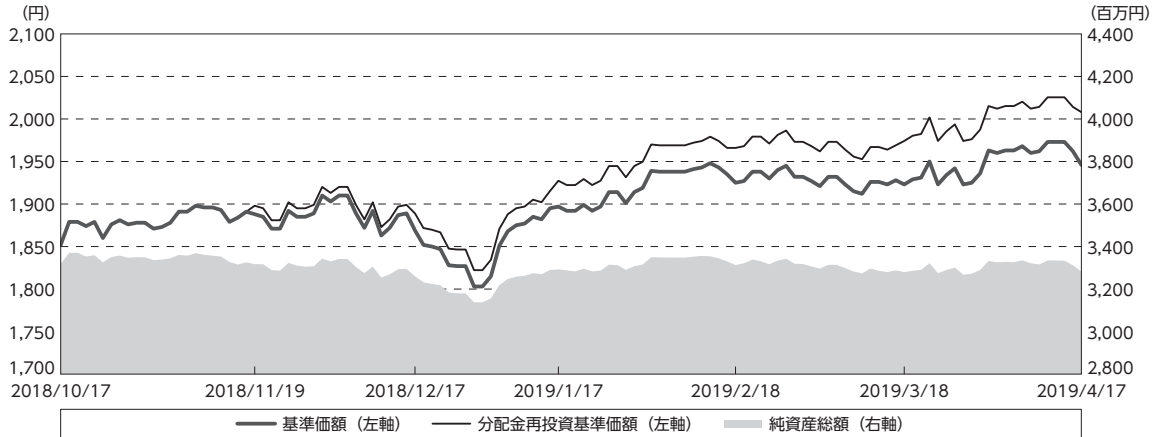
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2018年10月18日～2019年4月17日)



第 97 期首：1,852円

第102期末：1,946円（既払分配金（税込み）：60円）

騰 落 率： 8.4%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2018年10月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、世界の様々な資産を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。現物資産のうち外貨建ての部分については、原則として対円で為替ヘッジを行ない、さらに新興国通貨戦略を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・組入れ資産からインカム収入を得たこと。
- ・高利回り債券、REIT、優先証券市況が上昇したこと。
- ・新興国通貨戦略がプラスに寄与したこと。

<値下がり要因>

- ・MLPが下落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2018年10月18日～2019年4月17日)

項 目	第97期～第102期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 11	% 0.582	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(3)	(0.140)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(8)	(0.425)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	(0)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.020	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用)	(0)	(0.018)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	11	0.602	
作成期間の平均基準価額は、1,894円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年4月17日～2019年4月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年4月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年4月17日 決算日	2015年4月17日 決算日	2016年4月18日 決算日	2017年4月17日 決算日	2018年4月17日 決算日	2019年4月17日 決算日
基準価額 (円)	4,183	3,325	2,372	2,544	1,981	1,946
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	930	400	240	240	120
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.2	△ 16.8	18.1	△ 13.3	4.6
純資産総額 (百万円)	22,119	13,844	7,417	6,221	3,945	3,282

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2018年10月18日～2019年4月17日)

(高利回り債券市況)

高利回り債券市場は上昇しました。期間の初めから2018年12月にかけて高利回り債券市場は下落基調をたどり、スプレッド（上乘せ金利）の拡大により下落しました。米国内外の景気減速懸念、米中間の貿易摩擦の激化および原油価格の下落を背景に米国株式市場のボラティリティ（変動性）が大きく上昇し、12月を中心に下落したことからリスク回避の動きが強まり、高利回り債券を含むリスク性資産は調整色を強めました。2019年初から期間末にかけての高利回り債券市場は概ね一本調子の力強い上昇となりました。F R B（米国連邦準備制度理事会）が徐々にハト派色を強め、2019年内の利上げ見通しをゼロ回に引き下げるとともに量的緩和策の正常化（バランスシートの縮小）を9月に終了する方針を明らかにしたことが投資家のマインドを大きく改善させ、リスク性資産は年初から反転上昇しました。国債金利が大きく低下する一方、スプレッドは縮小したことからキャピタルゲイン主導で高利回り債券市場は強い展開となりました。米中間で貿易問題を巡る協議が進展したこと、中国景気の底打ち反転の兆候が増加したこと、および年内の利上げ開始を見送る方針を明らかにするなどE C B（欧州中央銀行）が緩和的な金融政策を指向する姿勢を鮮明にしたことも高利回り債券の上昇を後押ししました。

(不動産等関連証券市況)

R E I T市場は上昇しました。高利回り債券市場と同様にR E I T市場も期間の初めから2018年12月にかけては調整、その後期間末にかけては上昇という展開でした。期間の前半は米国金利の低下がプラス材料となったもののリスク性資産全般が調整するなかでR E I T市場も12月後半を中心に下げました。期間の後半はリスク性資産全般が戻すなかで先進国金利の大幅な低下もポジティブに作用し、R E I T市場は上昇しました。国別では香港、シンガポールおよび米国の上昇幅が大きくなった一方、セクター別ではヘルスケアが最も好調で、各種不動産と産業施設が続きました。

M L P市場は下落しました。期間を通じての値動きは高利回り債券市場、R E I Tと同様に2018年12月を境に期間の前半が下落、期間の後半が上昇となりました。M L Pでは期間の前半の原油相場的大幅な下落によるマイナスが大きく、期間の後半は戻しましたが期間の前半の下げを完全に取り戻すには至りませんでした。

(優先証券市況)

優先証券市場は上昇しました。程度の差はあれ高利回り債券とほとんど同様の展開・要因で優先証券市場は期間の初めから2018年12月にかけては概ね一本調子の下落、それ以降期間末にかけては反転上昇となり、期間の初めと比べて上昇しました。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.06%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.07%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.29%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.19%近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2018年10月18日～2019年4月17日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス）

相対的に高い利回りが期待できる3つの資産（高利回り債券、不動産等関連証券、優先証券等）に投資を行ないました。資産配分においては、高利回り債券55%、不動産等関連証券25%、優先証券等20%をめどとしました。現物資産への投資にあたっては、外貨建て部分について、原則として対円で為替ヘッジを行ないました。

また、新興国通貨の中から、金利水準などをもとに、買い建てる通貨と売り建てる通貨を選択し、金利が相対的に高い通貨を買い建てると同時に金利が相対的に低い通貨を売り建てて、金利収入の獲得をめざしました。各資産における運用経過は以下の通りです。

高利回り債券の運用においては、特に流動性が低いCCC格債への投資比率を引き下げる一方、代替としてBB格以上の債券の投資比率を大きく引き上げました。

不動産等関連証券の運用においては、REITとMLPの配分は概ね3対2としました。REITでは、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）に対する見方が若干楽観的に転じたため、特に米国ヘルスケアの投資比率を引き上げました。MLPでは、石油・天然ガスの貯蔵・輸送セクターで数銘柄を買い増しました。

優先証券の運用においては、発行体がコールを実施しない可能性やその場合の価格リスクについても注視しながら、クーポンの高い銘柄や金利上昇への備えとして変動金利水準の高い銘柄を組み入れ、銘柄選択による投資パフォーマンスの向上をめざしました。

期間中の新興国通貨戦略は、金利水準などをもとに、買い建てる通貨と売り建てる通貨を選択しました。買いポジションの通貨では、インドルピーやインドネシアルピアなどのアジア通貨が上昇する一方、ブラジルリアルやトルコリラは下落するなど、まちまちの値動きでしたが、全体ではプラスを確保しました。売りポジションの通貨のパフォーマンスは概ねゼロ近傍でした。買い・売り通貨の金利差によるキャリー収益もあり、新興国通貨戦略全体のパフォーマンスは堅調でした。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年10月18日～2019年4月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2018年10月18日～2019年4月17日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期
	2018年10月18日 ～2018年11月19日	2018年11月20日 ～2018年12月17日	2018年12月18日 ～2019年1月17日	2019年1月18日 ～2019年2月18日	2019年2月19日 ～2019年3月18日	2019年3月19日 ～2019年4月17日
当期分配金	10	10	10	10	10	10
(対基準価額比率)	0.527%	0.532%	0.524%	0.517%	0.517%	0.511%
当期の収益	10	10	10	10	10	10
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	2,544	2,602	2,663	2,726	2,792	2,861

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス)

引き続き、原則として、3つの資産（高利回り債券、不動産等関連証券、優先証券等）に投資を行なう方針です。現物資産のうち外貨建ての部分については、原則として対円で為替ヘッジを行ない、さらに新興国通貨戦略を行なう方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2018年10月18日から2019年4月17日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当社ホームページにおいて、より高い安全性を確保するためのセキュリティ対策としてHTTPS化を実施することに伴ない、当ファンドの信託約款における当社ホームページURLの表示を「www.nikkoam.com/」へ変更するべく、2019年1月18日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。（第48条、第48条の2）

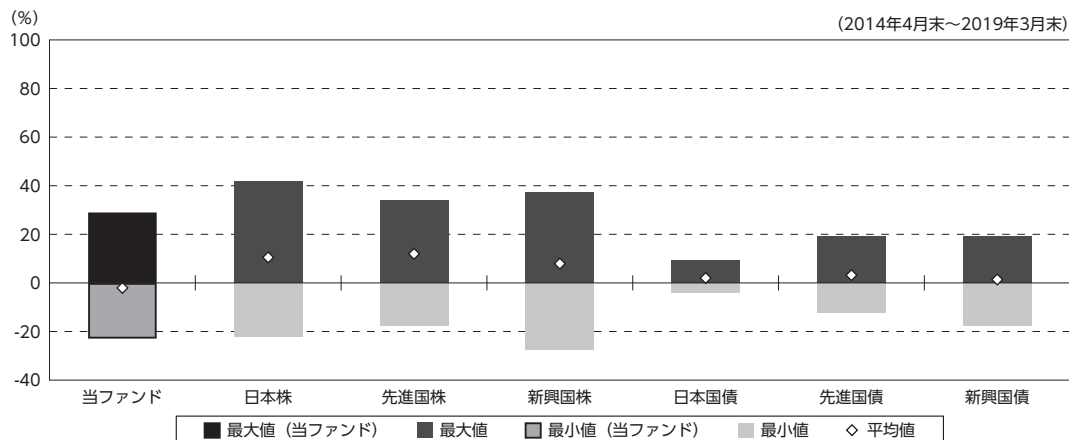
当ファンドについて、金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2に定める信用リスクを適正に管理する方法として、一般社団法人投資信託協会規則に従って委託会社が合理的な方法を定めるべく、2019年1月18日付けにて信託約款に所要の変更を行ないました。（付表）

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2010年10月29日から2020年10月19日までです。
運用方針	主として、世界の様々な資産を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	世界の様々な資産を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。相対的に高い利回りが期待できる3つの資産（高利回り債券、不動産等関連証券、優先証券等）に投資を行ない、現物資産のうち外貨建て部分については、原則として対円で為替ヘッジを行ないます。また、新興国20通貨程度の中から、相対的に金利の高い新興国通貨を買い建てると同時に、相対的に金利の低い新興国通貨を売り建てる為替取引を行ないます。
分配方針	第1計算期から第2計算期までは収益分配を行ないません。第3計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	29.0	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△22.9	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	△ 2.1	10.5	12.0	7.9	2.0	3.2	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年4月から2019年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年4月17日現在)

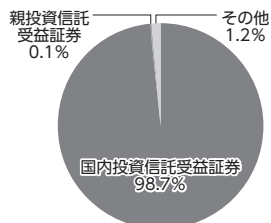
○組入上位ファンド

銘柄名	第102期末
	%
ハイブリッド・トライ・アセット・ファンドエマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス	98.7
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

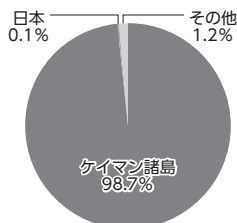
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

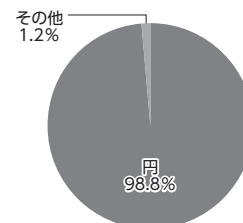
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

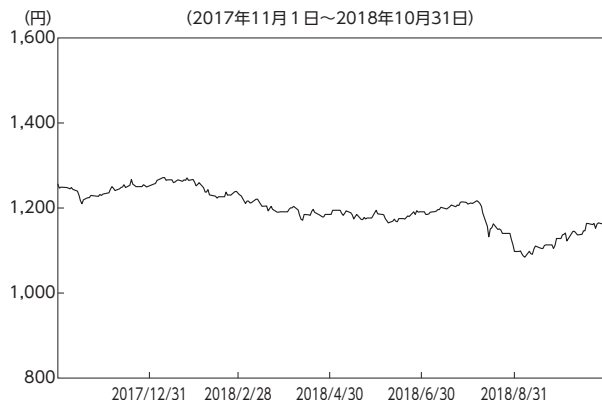
項目	第97期末	第98期末	第99期末	第100期末	第101期末	第102期末
	2018年11月19日	2018年12月17日	2019年1月17日	2019年2月18日	2019年3月18日	2019年4月17日
純資産総額	3,316,995,493円	3,260,385,721円	3,292,569,394円	3,312,695,266円	3,279,461,708円	3,282,017,852円
受益権総口数	17,572,842,105口	17,443,554,129口	17,355,591,957口	17,210,691,550口	17,050,030,060口	16,862,777,177口
1万口当たり基準価額	1,888円	1,869円	1,897円	1,925円	1,923円	1,946円

(注) 当作成期間（第97期～第102期）中における追加設定元本額は133,970,303円、同解約元本額は1,186,998,656円です。

組入上位ファンドの概要

ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド エマージング・カレンシー・ストラテジー・クラス

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年11月1日～2018年10月31日)
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2018年10月31日現在)

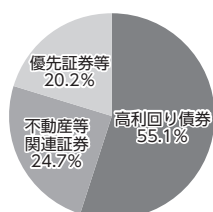
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率 %
1	Prudential PLC	優先証券	アメリカドル	イギリス	1.8
2	Credit Suisse Group	優先証券	アメリカドル	スイス	1.6
3	Nordea Bank	優先証券	アメリカドル	フィンランド	1.4
4	ENERGY TRANSFER LP	MLP	アメリカドル	アメリカ	1.4
5	HSBC Capital Funding	優先証券	アメリカドル	イギリス	1.3
6	ENTERPRISE PRODUCTS PARTNERS	MLP	アメリカドル	アメリカ	1.2
7	BNP Paribas	優先証券	アメリカドル	フランス	1.2
8	Allstate Corp	優先証券	アメリカドル	アメリカ	1.2
9	MAGELLAN MIDSTREAM PARTNERS	MLP	アメリカドル	アメリカ	1.2
10	MetLife	優先証券	アメリカドル	アメリカ	1.1
組入銘柄数			582銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

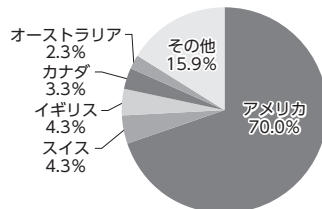
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

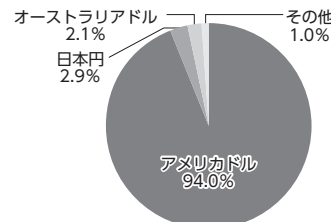
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

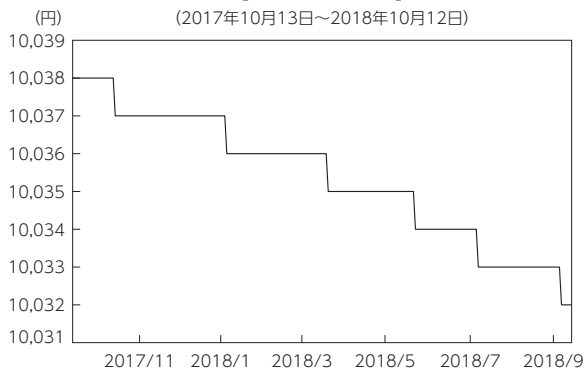
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、当該ファンドの運用を行なっているシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントより提供された情報です。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年10月13日～2018年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年10月13日～2018年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.006 (0.006)
合 計	1	0.006
期中の平均基準価額は、10,035円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2018年10月12日現在)

2018年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。